

令和3年第1回相馬市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和3年9月22日（水）

開会 午前10時30分

閉会 午前12時00分

2 開催場所

相馬市役所 2階 中央会議室

3 出席した構成員

相馬市長	立谷秀清
教育長	福地憲司
職務代理者	宗形明子
教育委員	関根進
教育委員	菅野明彦

4 欠席した構成員

教育委員	森陽子
------	-----

5 事務局関係

（相馬市）

企画政策部長	佐藤芳男
企画政策課長	高橋裕宗
企画政策課長補佐	鈴木洋平
企画政策係長	遠藤智

（相馬市教育委員会）

生涯学習部長	赤石澤 珍 夫
総務課長	只野 聡 一
学校教育課長	目黒 信 浩
学校教育課主幹	青田 祥 一
中央公民館長	岸 昌 彦
市民会館長	伊東 博 之

6 傍聴人

なし

7 協議事項

（1）重点的に講ずべき施策について

- ① 未来への「志」づくり事業について
- ② 校務支援システムの導入について
- ③ 「東日本大震災からの相馬市の復興」を学ぶ機会の提案について

（2）報告事項

- ① リーディングスキルテスト（R S T）の取組について
- ② 社会教育の充実について

8 議事の経過

- 1 開 会（企画政策課長）
- 2 市長あいさつ

== 協議事項に入る前段として、福地教育長からあいさつ ==

昨年は、1つに学校における新型コロナウイルス感染症対策、2つにR S Tの取組について、3つに社会教育の充実について協議いただいた。結果、コロナに関しては全国が注目する市長のリーダーシップのもとで着実に進められ、教育委員会の懸念でもあった同調圧力の回避についても、メッセージ、通知でも功を奏している状況にある。

R S Tについては、県の教育委員会でも、一丁目一番地に挙げていながらも中々、浸透しないという状況という中で、相馬市は先陣をきってR S Tを通して学力向上に取り組んでいる状況となっている。これについては、P D C Aに則り、後ほど途中経過の報告をさせていただく。

社会教育の充実については、「社会教育指導員の1名の増員」並びに「事務室の整理」をいただいた所で、こちらも後ほど報告させていただく。

さて、今年度は協議いただく事項として、1つに市民会館の自主事業となる「未来への志づくり事業」について、2つに「校務支援システムの導入」についてとなる。

「未来への志づくり事業」については、高校生をターゲットとした将来への志を持てるような講演会の実施を考えている。相馬市全体の社会教育を含めた教育環境を見たときに、若干だが高校生の関わりが少ないように感じる。高校教育の所管は、県となるものの相馬市の子ども達という視点で、講演会を提供することは意味のあることと考えている。今年度実施させていただいた「ビリギャル」の講演会については、県の教育委員会から感謝いただいたところ。

「校務支援システムの導入」については、教職員がもれなく使用することができることがマストであると考えている。児童・生徒に保障される効果を発揮するために、教職員への研修を充実させたいと考えている。

また、企画政策部から提案される「東日本大震災からの相馬市の復興」を学ぶ機会の提案については、教育委員会としては、大変意味のある提案と考えている。

ご忌憚のない意見、指示をいただきたい。

3 協 議

（1）重点的に講ずべき施策について

①未来への「志」づくり事業について

○協議結果 事業の目的を明確にした上で、それに合致した講師（人材）を集めてくることに注力して進める。

○協議内容

伊東博之市民会館長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 「志」ということを念頭に事業を実施していくのであれば、しっかり目標を定めないといけない。そのためには、「志」という言葉の意味を、理解しなくてはならない。「志」と「人生設計」を中心に考えることのできる子どもを育てていくべき。夢と志は異なっている。例えば、「将来、医者になりたい」は夢であって、「将来、医者になって白血病の治療をしたい、あるいは無医村にいつて働きたい」といった場合、それは志である。つまり「夢」には自分しかない、「志」には対象、広い意味で社会がある。地域とか、家族とか、国とかそういうものを意識して成長していくのであれば素晴らしいことだと。ただスマホの中で夢を見るようには成長してほしくない。「夢」を考える時に、現実的な「人生設計」も考えていかなければならない。「人生設計を考える習慣」をつけることが中学校、高等学校の進路指導、そのために社会教育をやる。

講演会を通じて、それで夢を持てるようになったではなく、自分のことを真剣に考えることができるようになったとか、社会との関わりが考えられるようになったとかに繋がってほしい。これは、教育再生首長会議で一番議論していること。

菅野明彦委員 講師選定が非常に難しいと考える。来年の講師は決まっているのか。

立谷秀清市長 この会議で方向性を検討して、それから講師選定を考えていく形になる。

菅野明彦委員 高校の時にもっと勉強しておけば良かったという話を聞くことがある。その時に勉強しなければいけないというのが気づけなかったというのが多いと思うので、気づきを与える意味でも、喚起することにつながり、大切なこと。

関根 進委員 対象が高校生ということだが、本来であれば中学生くらいから種をまいていっても良いと感じる。高校一年生あたりで本気で考えて、高校卒業してからどうするかというのが、今後の人生を左右するなどは感じている。

強く思わなければ、行動に移さないだろうから、夢は夢で持っていて良いと思う。行動に移した段階で、いかに志をもたせるように教えてあげることが重要。

宗形明子委員 自分がこうなりたいとか、こういう職業につきたいとか思っているものがあっても、これじゃダメだなとかこの成績じゃダメだなと思っている子どもがいたとするならば、『ビリギャル』の講演を聴いて、自分でもやればできるかもしれないという、あきらめない気持ちに気づけたのなら効果があったと考える。いろんな人の話を聞いて、刺激を受けることは、とても大事なことで、目標、志を与えられるような講演をしていくことは重要。

福地憲司教育長 講師の人選が重要。その人にどんな話をしてほしいのかをしっかりと伝えながら、進めていきたい。

②校務支援システムの導入について

○協議結果 システムを使いこなせるよう教師に対しての研修等を行いながら、進める。

○協議内容

目黒信浩学校教育課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 システムをいかに適切に使いこなしていくかだけだと考える。そのための教師への支援（研修等）を努力して進める。

③「東日本大震災からの相馬市の復興」を学ぶ機会の提案について

○協議結果 『出前講座』を活用して、学校で取り組んでもらうよう進める。

○協議内容

鈴木洋平企画政策課長補佐 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 市の『出前講座』を活用して進めるということなので、後世に伝えるという意味でも今後、テーマにしていきたい。

宗形明子委員 講座で使用するスライドに相馬市の健康影響については触れられていないが、それも入れたほうが良いのではないかな。

立谷秀清市長 子どもたちへの放射能対策に関する学習は、これとは別にしっかりやらなくてはいけないと考えているが、坪倉医師と相談してスライド（講座資料）に含められるか検討すること。

（２）報告事項

①リーディングスキルテスト（R S T）の取組について

○報告内容

目黒信浩学校教育課長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 非常に重要な取組。子どもたちが読解力をいかにつけていくかということ。試行錯誤を重ねながら、取り組んでいくもの。

②社会教育の充実について

○報告内容

岸昌彦中央公民館長 （別紙資料により説明）

立谷秀清市長 いろんな行事をつかまえて、地域交流とか子どもたちの発表の場を作っていきたいということ。既存の行事を、活用していくことも必要。

== 協議後に、福地教育長から総括意見 ==

様々なことを協議いただきましたが、まず「未来への「志」づくり事業」では講師の人選が重要だと改めて考えたところ。教育委員会の思いを、講師にきちんと伝えていかなければならない。また、「校務支援システム導入」については、もれなく教師が使えることが大事であって、研修が大事なファクターになる。これについては、今からきちんと考えていくところ。「相馬市の復興を学ぶ機会の提案」については、企画政策課から提案があったが、これからの子どもたちに東日本大震災、原発事故等についてしっかり伝えていく、学ばせていく、発信していくにつながっていくよう極めて大事な提案。報告事項の２点、「R S T」について、私の思いとしては小中学校だけに留まるのではなく、本当だと高校生にもやっていただきたいと考えている。しかし、そこは難しい課題もあるので、市内高校に実施を促すよう話をしてみたい。さておき、東京都の板橋区でも三年間継続して行って、学力への効果がみられた事例もあるようなので、しっかり実施、対応していきたい。「社会教育の充実」について、社会教育指導員を１名増員した中で、今後、積極的な社会教育が重要となってくる。とりわけ、高齢者の「ひきこもり予防ネットワークの構築」について、なかなか他市町村でも公民館、健康福祉、民生委員、社会福祉協議会が連携

する事業は少ない事案であるし、相馬市として社会教育を進めていく上で、次年度以降、アピールポイントになっていけばと考えている。

4 閉 会